

福島大学 声楽研究室 (今尾研究室)

声楽研究室では、声楽に関わる全ての研究をすることができます。最も多い研究として、「演奏法研究」、「レパートリー研究」が例に挙げられます。これらは実技を通しての研究であることが特徴であり、声楽実技をより深く学ぶことを通して、院生固有の声の使い方、レパートリーの選び方などを追及していくものです。2年間の成果は**修了演奏**で発表します。

それとは別に、声楽研究室では音楽科の他の実技系研究室と同様、副研究として**副論文**を提出することになっています。これは主研究となる実技系の研究を補完するものであり、主研究と強い関連性のある研究に限らず、声楽が関連するすべての問題について研究を行うことができます。以下にこれまでの修了生の研究をあげますので参考にしてください。以下にこれまでの修了生の研究をあげますので参考にしてください。

これまでの大学院修了生の研究例

1. (主研究)声の特質に着目した演奏技術の研究 → 修了演奏でドニゼッティ作曲『ランメルモールのルチア』～狂乱の場等を演奏。
(副研究)福島県における社会人による合唱活動の在り方に関する一考察—アンケート調査を中心に—
2. (主研究)バロックから現代までのドイツの声楽曲の演奏研究と合唱における発声指導の研究 → 修了演奏でバッハの aria、シェーンベルクの歌曲などを演奏
(副研究)合唱歌唱における発声法の研究)
3. (主研究)イタリア・オペラにおけるテノーレ・リリコ・レッジーエロの演奏法とレパートリー → 修了演奏でロッシーニ作曲『セヴィリアの理髪師』の aria 等を演奏。
(副論文)オペラの現代演出についての考察